

平成31年度（令和元年度）京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情意体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>■ 本校が目指す学校像</p> <p>1 「大江高校に来てよかった」と思える学校</p> <p>2 第1希望の進路が実現する学校</p> <p>3 地域から愛される学校</p> <p>■ 本校が目指す生徒像</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな情操【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 健康でたくましい心身【体】 自他の生命を大切にし、心身ともに健康でたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、就職内定率100%（約80%が地元企業）につながった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として充実した取組を行うことができた。立案・運営する活動、活性化策を考える調査・研究を通して、主体的な学習に向かう姿勢を身に付ける生徒も見られ、高い学習効果につながった。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、情報機器を活用した授業研究等を行うなど、授業力の向上を目指した取組を行った。各教科においては授業の進め方や教材などを工夫したり、表現活動、体験学習や校外学習を取り入れるなど、生徒の主体性を引き出す実践を行った。 セカンドラーニングを活用するなど、教務部、学年部、教科が連携して取り組み、丁寧な指導することができた。また、授業のみならず、課題や小テストを定期的に行い、幅広く評価することで、基礎基本の徹底を目指した取組を行うことができた。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能を高める指導により、昨年度までに引き続いて全国簿記コンクール、全国ワープロ競技大会、スピーチコンテスト等において優秀な成績を収めることができた。</p> <p>(5) 学校改革に向けて分野別にワーキンググループによる検討を行い、前年度までに定められた方向性を具体化する作業を進めることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 学校改革に向けての取組の過程を踏まえ、教育課程への位置付けを目指し、さらに具体的な検討・準備を行う必要がある。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を目指したが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討しなければならない。</p> <p>(3) マナーアップを目指し、通学・学校生活での指導に取り組んだが、今後も身だしなみや携帯端末の指導を継続して重点的に取り組む必要がある。</p> <p>(4) 中学校との連携を積極的に行ったが、志願者増にはつながらなかった。中学生の志願に結びつく広報について検討し、教職員全体で対応する必要がある。</p>	<p>1 学校改革と地方創生教育による特色化をさらに推進するとともに、学科改編を実施する。 平成27年度から推進してきた地方創生教育をより体系的・効果的に推進し、様々な取組を教育課程に位置付けることにより、効果のある取組を継続的に行うようにする。また、将来に向けた学校改革を具体化し、学科改編を円滑に実施できるようにする。</p> <p>2 戦略的な広報活動の展開 次年度入学生から始まる新学科（仮称：地域創生科）の教育内容を、オープンスクールや学校説明会を通して、中学生・その保護者・中学校教職員に周知させる。 また、地域創生を目指した各種連携事業を、マスメディアやホームページ等を通じて発信し、地域住民や事業所並びに関係機関への理解を求めるとともに、新学科へのスムーズな接続を図る。</p> <p>3 「生徒を伸ばす学校づくり」を強化する。～教え方改革の実践～ 「教え方改革」を実践することにより、きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との連携により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>4 スマートスクール化の推進 配備された電子黒板等のICT機器を効果的に活用し、ソサエティ5.0で想定される新たな教育システムの構築を目指す。</p> <p>5 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。 (1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。 (2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。 (3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学ぶ姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>6 安心・安全な学校環境の構築を進める。 いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。</p> <p>7 教職員の働き方改革の推進 業務改善、教員の負担軽減対策を講じることにより働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	学校改革と地方創生教育によるさらなる特色化の推進	<p>■ 学校経営戦略会議（ワーキンググループ会議）を軸に、昨年度までにまとめた学校改革について詳細を検討し、教育課程も含めた具体的な改革案を作成する。</p> <p>■ 京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校として過去2年間に取り組んだ地方創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。</p> <p>■ 学校設定科目を中心にアクティブラーニングや体験活動の要素を取り入れ、普通科・ビジネス科学科両学科の特色を生かした本校独自の魅力ある授業内容の研究を進める。</p>	A A A	B	<p>■ 次年度の新学科「地域創生科」の教育内容について審議を重ね、6系統を取りまとめる系統長の任命、及び系統長会議の開催により、取組内容を具現化することができた。</p> <p>■ 京都フロンティア校（地域創生推進校）として、これまでの成果を継承し、体験型学習としてのアクティブラーニングを中心に学習効果を高め、今年度も成果を上げることができた。特に『「森の京都」観光プランコンテスト』（南丹・中丹広域振興局主催）では最高位の府知事賞を受賞することができ、1年間の取組の成果といえる。</p> <p>■ 次年度に設置する新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、生徒募集においても定員を大きく下回る事となった。ホームページの更新についても、更新が遅れている内容が多く、その整理に時間を要し2学期当初にようやく整えることができた。今後は画面の構成もきめ、工夫を凝らした魅力ある内容にしていきたい。</p> <p>■ 年度初めから出退勤管理システムを活用し長時間勤務の改善に取り組んだ。2月中旬からは衛生委員会で検討を重ねてきた「タイムマネジメントアクション」を試行し、退勤時刻の改善に取り組んでいる。</p>
	積極的な広報活動の展開による本校第1希望者の増加	<p>■ 広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新（リニューアルを含む）等を積極的に行う。</p> <p>■ 各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。特に中学校での出前授業や体験授業を充実させることで本校の魅力を伝える。</p>	B C		
	働き方改革の推進	<p>■ 教育活動を円滑に実施するためには、教職員の健康の充実が不可欠であることから、出退勤管理システムの記録を分析し、長時間勤務教職員の勤務時間の縮減に取り組む。</p>	B		

平成31年度（令和元年度）京都市立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

<p>学習指導・進路指導</p>	<p>「生徒を伸ばす学校づくり」の強化</p>	<p>■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、誰もが分かる授業を展開するとともに校外での研修を継続的に行い、授業力のアップにつなげる。 また、地域との連携等を通じて主権者教育、人権教育、道徳教育など様々な視点からの学びを提供する。 ■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特に学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。</p> <p>■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。 ■図書館の利用の促進、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感の涵養につなげる。</p> <p>■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によるきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。 ■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>■様々な学力層の生徒が混在する中で、各教科で授業の進め方や教材などを工夫したり、多面的な学びを提供できた。特に今年度から京都府教育委員会が3カ年計画で取り組む「スマートスクール推進事業」により教室に最新のプロジェクターが設置され教師用タブレット端末が整備されたことにより、ICT機器を活用した質の高い授業について研究し実践を始めた。 ■基礎力補習については夏季休業中に27回、冬季休業中に26回の講座を開講し、延べ46名の生徒が受講した。その結果、成績不振科目の克服に繋げることができた。第2学期後半から京都府教育委員会が取り組む事業である「セカンドラーニング教室」を活用し定期考査前の特別講習を実施することができた。この取組では年度当初数学と英語の2教科で年間を通して実施する予定であったが講師の確保ができず1/4程度の実施となったことに課題を残した。また、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討しなければならない。 ■進路指導においては、系統的かつ計画的に進路指導を行い、今年度も就職内定率100%であった（11年連続達成）。進学については、ほぼ希望進路の実現を果たした。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>マナーアップ指導によるシチズンシップ教育の推進  安心・安全な学校の構築  課外活動の活性化</p>	<p>■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の市民生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制で粘り強く丁寧に指導する。</p> <p>■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。 ■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。</p> <p>■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。また、地域と連携したボランティア活動や本校独自の取組への参加を奨励することで、自己有用感の涵養につなげる。 ■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>■マナーアップを目指し、登校時に生徒指導部をはじめ学年部の教員が校門での積極的な声かけ等、年間を通して取り組むことができた。 ■身だしなみ指導については、時期を設定し各1週間、全教職員で点検カードを活用し取り組んだ。一定改善に導くことができたが、高校生活の根幹に係る内容でありさらに成果を求め取り組む必要がある。また、通学上については、乗車マナーや国道横断等で苦情を伺うことがあった。乗車マナーの指導はシチズンシップ教育の観点から、道路での交通マナーは命に関わる観点から、継続してねばり強く指導していくこととしている。 ■学校生活では、特に年度当初は授業に向かう姿勢に課題を抱える生徒が多かったが、教職員の工夫した指導により、学期が進行するにつれて少しずつ落ち着いて授業に取り組むことができるようになった。 ■部活動については、加入率が低くなり活性化に苦慮している。</p>
<p>保健・環境</p>	<p>健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立  教育環境の整備</p>	<p>■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで自己管理できる素養を育てる。 ■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を取る。 ■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。また、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>■保健だよりを毎月発行し啓発活動を行うことができた。健康診断の結果、医療機関への受診が必要な生徒には冬休み前に再勧告し、受診に繋がった生徒もいたが、全体の受診率は低く、勧告方法について検討する必要がある。 ■まなび生活アドバイザー及びスクールカウンセラーから助言を受けて専門機関に繋げ、生徒や保護者への支援に活かすことができた。 ■ゴミ分別が不十分なクラスが見受けられる。学校全体でゴミの減量への意識向上に繋がる取組が必要である。 ■衛生委員会の巡回点検等により整備不良箇所に重点的に予算を配分し環境整備の向上を図ることができた。</p>
<p>学校関係者評価委員会による評価</p>	<p>◆府内の学校によっては部活動で特色（須知高校のホッケー、北桑田高校の自転車等）を打ち出している。大江高校には北部の府立高校で唯一弓道場が整備されているので、弓道部の活性化を目指してほしい。 ◆ソフト経済科の発足から現在のビジネス科学科に至るまで、大江高校へ行けばパソコンの技能・技術が身につくことが定着している。新学科においても取り組んでほしい。 ◆就職については11年連続して100%を達成しており評価できる。しかし、進学における進路保障が喫緊の課題であると思う。近くにある福知山公立大学や京都工芸繊維大学に毎年のように何名かが入学できたら生徒の士気も上がる。 ◆卒業証書授与式に来賓として参加したが、呼名の際に大きな返事ができる生徒が多く感動した。3年間の学びの成果をみることができた。 ◆自分の地元（与謝野町）では大江高校は遠いという印象を持った保護者が多い。しかし福知山市内の私学や久美浜高校に進学する生徒もおり、距離だけの問題ではないと思う。志願者が増えるよう、大江高校の魅力を発信してもらいたい。 ◆授業料の助成などによって私学との経済面での格差が埋まり生徒が逃げていく。地域創生科でどのように生き残っていくかピーアールが必要である。地域住民や企業の協力を求め、地元を巻き込んだ学校運営が望まれる。 ◆福知山（大江町）といえば水害のイメージがあるが、イベントなどを開催してもその魅力が地域以外には中々周知されない。大江高校で地域とともに学び、地域に積極的に関わってくれる人材の育成に期待している。 ◆同窓会活動で京都市立大江会に出向くことがあるが、大江高校を含む旧大江町についての話題で終始する。ぜひ、全国に広がる同窓生に現在の大江高校を広報し協力を仰いでほしい。</p>				
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>■新学科「地域創生科」の完成年度である令和4年度での的確な目標を策定し、それにむけた具体的な取組をさらに推進する必要がある。 ■学習指導については上記の通り一定効果が見られるが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討する必要がある。 ■部活動については、加入率が低くなり苦慮しているところであり、その意義や効果について広く指導し活性化を図る必要がある。 ■学校関係者評価委員会から、本校が進める地方創生教育に対して前向きな評価をいただいた。保護者のみならず地域の方の期待に応えることができる人材の育成に努めたい。 ■次年度に改編する新学科「地域創生科」の中学生及び保護者に対する教育課程等、教育内容の周知が十分に進まず、令和2年度入学者選抜においては志願者が大きく定員を割り込むこととなった。本校では、多様な生徒が入学してくる中で、丁寧且つ粘り強く指導し総合力を大きく伸ばしている実績がある。そういった部分をしっかりとアピールし、大江高校の魅力を発信していきたい。また、新学科「地域創生科」の今後の展望を含め、特色ある取組の魅力についても発信していきたい。</p>				